

CentreCOM® 8624XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8624XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のユーザーマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前に
ご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl24 (2.2.2-24)

2 未サポート機能

以下の項目は付属のユーザーマニュアル、または最新のコマンドリファレンスに記述がありま
すが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- BOOTP サーバー

3 本バージョンで追加・仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl21 から 2.2.2 pl24 へのバージョンアップにおいて、以下
の項目が追加、または仕様変更されました。

3.1 DVMRP (AT-FL-03) の仕様変更

Graft/Prune メッセージに Source Network Mask フィールドを含めなくなりました。

3.2 DHCP サーバー機能に関する仕様変更

DHCP サーバー機能使用時、起動直後にインターフェースや経路の状態にかかわらず
行っていた IP アドレスの使用状況確認を、該当アドレスレンジに対応するインター
フェースまたは経路が使用可能になった時点で初めて行うようにしました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl21 から 2.2.2 pl24 へのバージョンアップにおいて、以下
の項目が修正されました。


- 4.1 NTP 機能使用時、他の NTP クライアントからのリクエスト (UDP 始点ポートが 123
以外) に返信した後もクライアントの情報をリセットしないため、SHOW NTP コマン
ドで Dynamic Peer(s) リストが表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.2 ターミナルポートから大量のデータを受信すると本体がリポートすることがありま
したが、これを修正しました。
- 4.3 AT-A35/SX または AT-A35/LX 装着時、TX、RX のどちらか一方だけが抜けた場合に
リンクダウンを検出できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.4 パケットの種類に関係なく、パケットの受信中に本体を起動すると、フォーワーディング
データベースに不正な MAC アドレスが登録されることがありましたが、これを修正し
ました。


- 4.5 ENABLE SWITCH L3FILTER コマンドより先にENABLE IP IGMP コマンドを実行すると、ハードウェア IP フィルターで本体 CPU 宛での通信を遮断できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.6 ある IP アドレスに対してメトリック 2 以上の経路が複数存在する場合、同アドレスへの PING 実行中に最適な経路がダウンすると、経路の切り替えが行われず PING が失敗していましたが、これを修正しました。
- 4.7 DHCP クライアント機能において、リース延長要求中 (RENEWING 状態のとき)、DHCPREQUEST メッセージをユニキャストではなくブロードキャストしていましたが、これを修正しました。
- 4.8 隣接ルーターのプライオリティが変更された場合、SHOW OSPF NEIGHBOUR コマンドの表示に変更が反映されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.9 本体を再起動した後に SHOW OSPF INTERFACE コマンドを実行すると、アップ状態のインターフェースが DOWN と表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.10 トランクグループの所属ポートに対して ARP エントリーをスタティック登録すると、起動時にクラッシュすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.11 Gratuitous ARP に対応しました。
- 4.12 SHOW IP COUNTER=ARP コマンドで arpTx (送信 ARP パケット数) が正しく表示されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.13 DVMRP (AT-FL-03) において、送信ホストと異なる VLAN にグループメンバーが存在している場合、その VLAN に所属する下流側 DVMRP ルーターから Graft メッセージを受信しても、マルチキャストパケットの転送が行われませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.14 DVMRP (AT-FL-03) において、Graft/Prune メッセージを受信すると、受信ポートの所属 VLAN 内に Graft/Prune がフラッディングされていたましたが、これを修正しました。
- 4.15 DVMRP (AT-FL-03) において、Source Host Address フィールドにネットワークアドレスがセットされた Graft メッセージを認識できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.16 DVMRP (AT-FL-03) において、Graft/Prune メッセージの Source Address フィールドにホストアドレスではなくネットワークアドレスをセットして送信していましたが、これを修正しました。
- 4.17 DVMRP (AT-FL-03) をマルチホーミングと併用した場合、マルチキャストデータが転送されないことがありましたが、これを修正しました。

- 4.18 SET IP IGMP コマンドで QUERYINTERVAL パラメーター (Query Interval) の値を変更しても、(内部パラメーターである) Other Querier Present Interval の値が正しく更新されませんでした。これを修正しました。
- 4.19 IGMP スヌーピング使用時、予約済みアドレスブロック 224.0.0.0/24 宛でのマルチキャストパケットを抑制していましたが、これを修正しました。
- 4.20 ファイアウォール (AT-FL-02) 使用時、NTP などによって日時が過去に戻されるとセッションが切断されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.21 ファイアウォール (AT-FL-02) において、本来ファイアウォールルールの適用対象外である ICMP パケットが、ACTION=DENY PROTOCOL=ALL のルールによって破棄されていましたが、これを修正しました。
- 4.22 ファイアウォール (AT-FL-02) において、Unreachable などの ICMP エラーメッセージが PUBLIC から他のインターフェースに転送されませんでした。これを修正しました。
- 4.23 DHCP サーバー機能において、継承関係のある DHCP ポリシーを複数作成して設定ファイルに保存すると、ポリシー名が ASCII コードの昇順にソートされるため、起動時にエラーが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 4.24 DHCP サーバー機能において、リレーエージェント経由で受信した DHCPREQUEST に対して DHCPNAK を返送するときに、Broadcast ビットをセットしませんでした。これを修正しました。
- 4.25 DHCP サーバー機能において、OFFERED 状態のクライアントに DHCPNAK を送信した後も、該当アドレスが UNUSED 状態に戻らないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.26 DHCP サーバー機能において、リレーエージェント経由で DHCP メッセージを受信すると、クライアントに誤ったサブネットの IP アドレスを割り当ててしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.27 DHCP サーバー機能において、IP アドレス割り当て済みのクライアントから、リース期間中に再度 DHCPDISCOVER を受信すると、新たな IP アドレスを割り当てようとすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.28 DHCP サーバー機能において、本体を再起動した直後の IP アドレス確認で、DHCP レンジの先頭アドレスに対する確認が行われませんでした。これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

5.1 SNMP MIB オブジェクトについて

 [「ユーザーマニュアル」2-51 ~ 2-52 ページ](#)

 [「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」](#)

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。


- MIB II オブジェクト [ipNetToMediaPhysAddress] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dStpPriority] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dBaseType] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot3StatsFrameTooLongs] が正しくカウントアップされません。

5.2 ソフトウェア IP フィルターについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」](#)

ADD (SET) IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。

5.3 フォワーディングデータベースについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」](#)

1 回目のエージアウトですべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

5.4 ディレクティブブロードキャストアドレス宛のパケットについて

異なるネットワークからディレクティブブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース (パケットを実際に送り出すインターフェース) の IP アドレスがセットされます。

5.5 DHCP サーバー機能について

 [「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」](#)

- クライアントに割り当てていた IP アドレスを解放した場合、SHOW DHCP RANGE コマンドの表示項目 Free Address (未使用の IP アドレス一覧) に、該当の IP アドレスが重複して表示される場合があります。
- IP アドレスのリース期間が年をまたがった場合、SHOW DHCP CLIENT コマンドで Expiry (リース終了日時) が正しく表示されません。ただし、動作は正常です。

5.6 DHCP リレーエージェント機能について

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」](#)

DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値 (最大転送回数) より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

5.7 VRRP について

📖 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

- SET VRRP コマンドの PRIORITY パラメータの設定（変更）が有効になりません。
- SHOW VRRP コマンドで表示される「Up Master Trigger」と「Down Master Trigger」カウンターの値が、トリガーが起動された回数でなくトリガー番号になっています。

5.8 ファイアウォール (AT-FL-02) のアクセスリストについて

📖 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「フィルタールール」

ファイアウォールルールにアクセスリストを指定した場合、該当のルール以降のルールが無効になります。アクセスリスト以外に複数のルールを併用する場合は、アクセスリストのルール番号に「299」（最終番号）を指定してください。

5.9 IGMP (AT-FL-03) について

📖 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IGMP を有効（ENABLE IP IGMP）から無効（DISABLE IP IGMP）に設定しても、Report メッセージがフラッディングされません。この場合は、設定を保存した後、本体を再起動してください。

5.10 スクリプト機能について

📖 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「スクリプト」

IF THEN ELSE 文で使用する文字列比較演算子 EQ（等しい）および NE（等しくない）は、文字列の先頭 2 文字しか比較しません。したがって、「AAAA」と「AABB」を比較すると、同一の文字列であると判断してしまいます。この問題を回避するには、先頭 2 文字で違いを判断できるような文字列を使用してください。

5.11 スパニングツリープロトコルについて

📖 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

STP ドメインの設定後に PURGE STP コマンドを実行すると、本製品がクラッシュすることがあります。PURGE STP コマンドは使用しないでください。

5.12 ポートミラーリングについて

📖 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」 / 「ポートミラーリング」

タグなし（Untagged）に設定されているソースポートでタグなしパケットを送受信した場合、タグ付きでミラーポートにミラーされます。


5.13 SNMP エージェントについて

📖 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP エージェント機能を有効時、コミュニティ名を「public」（すべて小文字）に設定していると、PROTOS TEST の一部試験項目でクラッシュが発生します。これを避けるには、コミュニティ名を「public」以外に設定してください。


6 ユーザーマニュアルの補足事項

6.1 VLAN への IP アドレス設定数について

 [「ユーザーマニュアル」 3-45 ページ](#)


本製品の VLAN 設定数は最大 62 個 (default VLAN を除く) ですが、VLAN への IP アドレス設定数は最大 32 個となります。

6.2 スパニングツリードメイン設定数について

 [「ユーザーマニュアル」 3-29 ~ 3-36 ページ](#)

スパニングツリードメインの設定数は、最大 16 個となります。

6.3 QoS について

 [「ユーザーマニュアル」 3-27 ~ 3-28 ページ](#)

- 本製品は、ユーザープライオリティーを 0 ~ 3 の 4 レベルのキューに割り当てることができます。

「ユーザーマニュアル」3-27 ページに「システムは、優先度の高いキュー 3 から順に、すべてのパケットを転送した後、次のレベルのキューの転送を行います。」とありますが、正しくは以下のとおりとなっていますので、訂正してお詫びいたします。

各レベルのキューに割り当てられる帯域は、相対的に最も優先度の低いキューが 0% で、残りのキューが 100% を均等に共有するという割合になっています。割り当てられる帯域は、パケットが同時にキューイングされているキューの数により次のように異なります (数値は一番左が相対的に最もレベルの低いキュー、一番右が相対的に最もレベルの高いキューに割り当てられる帯域を示しています)。


同時に 2 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 100 (%)

同時に 3 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 50 : 50 (%)

同時に 4 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 33 : 33 : 33 (%)

- タグ無しパケットは、ユーザープライオリティー「0」で処理されます。


6.4 ポートトランキングについて

 [「ユーザーマニュアル」 3-6 ~ 3-8 ページ](#)

- バージョン 2.2.2 pl11 で、トランクグループに追加されたポートの通信モードが、Full Duplex 固定から SPEED パラメーターで指定した速度のオートネゴシエーションとなりました。バージョン 2.2.2 pl11 以降を搭載した機器とバージョン 2.2.2 pl04 以前を搭載した機器間ではポートトランキングの接続はできませんのでご注意ください。
- バージョン 2.2.2 pl18 で、ポートトランキングと VLAN 間ルーティングを併用した場合に、ルーティングされたパケットに対して負荷分散が行われるようになりました。ただし、送信ポート決定の基準になるのは「IPDEST (終点 IP アドレス)」のみで、その他のパラメーターを指定した場合も、IPDEST を指定したときと同じ動作になります。
- フラッディングされたパケットの送信ポートには、トランクグループ内でリンクが一番最初に確立したポートが使用されます。
- ポートトランキングとスパニングツリーを同一ポートに設定することはできません。

6.5 リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」について

- バージョン 2.2.2 pl04 で、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」がサポートされたことにより、ステータス LED の表示内容が以下ようになります。

 「ユーザーマニュアル」 1-8, 4-5 ページ

LED	色	状態	表示内容	
FAULT	赤	点灯	本体、またはソフトウェアが故障しています。	
		点滅	1回点滅：	ファンに障害があります。
			3回点滅：	リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていて、本体の電源ユニットに異常があります。
			4回点滅：	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の電源ユニットに異常があります。
			5回点滅：	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていません。
消灯	システムに異常はありません。			
RPS	緑	点灯	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、かつ、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されています。	
		消灯	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでOFFが指定されているか、ONが指定されている場合はリダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていません。	
PWR	緑	点灯	本体に電源が供給されています。	
		消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。	

- CentreCOM RPS8000 の状態表示には、LED の表示と CLI での表示があります。どちらも、SET SYSTEM RPSMONITOR コマンドによるモニターの有効化が必要です。


SET SYSTEM RPSMONITOR={ON|OFF}

ON (有効) /OFF (無効) で指定します。デフォルトは OFF です。OFF の場合、LED や CLI で CentreCOM RPS8000 の状態を表示することはできません。

SHOW SYSTEM コマンドで表示される以下の項目で、本体と CentreCOM RPS8000 の電源状態を表示します。

Main PSU	本体の電源状態です。On (電源オン) /Off (電源オフ) で表示します。
RPS Monitor	CentreCOM RPS8000 のモニターのステータスです。On (有効) /Off (無効) で表示します。
RPS Connected	本製品と CentreCOM RPS8000 の DC 電源ケーブルによる接続状態です。YES (接続) /NO (未接続) で表示します。
RPS PSU	CentreCOM RPS8000 の電源状態です。On (電源オン) /Off (電源オフ) で表示します。

6.6 ADD (SET) USER コマンドについて

 **「ユーザーマニュアル」 2-28 ページ**

バージョン 2.2.2 pl04 で、ADD (SET) USER コマンドに LOGIN パラメーターが追加されました。


```
ADD USER=login-name PASSWORD=password LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO} [other-options...]
```

```
SET USER=login-name [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]
```

```
SET USER [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]
```

LOGIN パラメーターは、USER レベルのアカウント (PRIVILEGE=USER) を作成する場合に必須となります。TRUE (ON/YES) を指定した場合は、ユーザーにコマンドラインインターフェース (CLI) へのログインを許可します。FALSE (OFF/NO) を指定した場合は、ユーザーに CLI へのログインを許可しません。RS-232 経由、および Telnet 経由のログイン行為に対して有効です。

6.7 ポートセキュリティのスタティックエントリー (learn) について

 **「ユーザーマニュアル」 3-12 ~ 3-15 ページ**

SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合のスタティックエントリー (learn) の扱いが、バージョン 2.2.2 pl04 で一部変更になりました。


2.1.5 pl02 以前

スタティックエントリー (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、FDB から消去されます。

2.2.2 pl04 以降

スタティックエントリー (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、(設定内容を保存しても) 本体の再起動によって FDB から消去されます。

6.8 RIP バージョン 2 について

 **「ユーザーマニュアル」 3-46 ページ**

RIP バージョン 2 の可変長サブネット環境において、ADD (SET) IP RIP INTERFACE コマンドで、RECEIVE パラメーターに BOTH を指定した場合、経路情報を受信することができません。RECEIVE パラメーターには RIP2 を指定するようにしてください。

7 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9600/8600 シリーズ コマンドリファレンス 2.2 (J613-M0522-00 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、付属のユーザーマニュアルと上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、ホームページで最新の情報をご覧ください。

*バージョンバー「J613-M0522-00 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

コマンドリファレンス 2.2 (J613-M0522-00 Rev.C) へのリンクはこちら：

<http://www.allied-teselis.co.jp/support/8624xl/manual.html>